



福井の希望を考えるフォーラム

福井は豊かな県と言われていています。しかし、私たちはそれを実感し、さらに伸ばしていけるでしょうか。そして、私たちに希望はあるのでしょうか。

今回、県では、希望と社会との関わりについて研究を行っている東京大学社会科学研究所の「希望学プロジェクト」と協力してフォーラムを開催します。福井の魅力や希望を考えてみませんか。

○日 時 平成20年11月10日（月） 13:30～16:00

○場 所 福井県国際交流会館 多目的ホール
（福井市宝永3丁目1-1）

○定 員 150名（申込み順） ○参加費 無料

○主 催 福井県・東京大学社会科学研究所

○次第

13:00	受付開始	
13:30～13:45	はじめに	「ふるさとと希望について」 福井県知事 西川一誠
13:45～13:50	挨拶	東京大学社会科学研究所 所長 小森田秋夫教授
13:50～14:40	第1部 講演	「希望学プロジェクト紹介」 東京大学社会科学研究所 宇野重規准教授
		「希望と変革」 東京大学社会科学研究所 廣渡清吾教授
14:50～16:00	第2部 パネル ディスカッション	東京大学社会科学研究所 玄田有史教授（コーディネーター） 中村尚史准教授（パネラー） 宇野重規准教授（パネラー） など



小森田秋夫[東京大学社会科学研究所長]
日本海のむこう側—ロシア沿海地方の司法の変貌を研究テーマのひとつとしているが、今は、研究所の活動を広く社会に知っていただく、という役割に徹している。

廣渡清吾[東京大学社会科学研究所教授] 第1部 基調講演

専門は日本法と比較しながらのドイツ法の研究、大学行政や学術政策の仕事にも関係してきた。今回の希望の研究で、福井の皆さんとお会いできることになった。



玄田有史[東京大学社会科学研究所教授] 第2部 パネルディスカッション コーディネーター
専門の経済学と同時に、2005年から希望学を研究中。希望はどのようにして生まれるかを、福井の皆さんと一緒に考えるのを楽しみにしている。

中村尚史[東京大学社会科学研究所准教授] 第2部 パネルディスカッション パネラー
専門は日本経済史・経営史。とくに明治期の鉄道史や地域経済史を研究してきた。最近、地方の経済活性化に大に関心あり。現在、「地方の活力」に関する本を執筆中。



宇野重規[東京大学社会科学研究所准教授] 第2部 パネルディスカッション パネラー
地方自治の重要性を唱えたトクヴィルを中心にフランス政治思想史を研究。現在は、平等・地域・希望の問題に取り組んでいる。

西川一誠[福井県知事]

ふるさと納税を提唱し、導入を実現。未来に希望と夢を、ふるさとに自信と誇りを持つ「楽しみ」と「喜び」にあふれた理想の福井づくりを目指す。



○参加申し込み方法

以下の参加申込表に必要事項を記載の上、平成20年11月5日(水)までにFAX、またはメールにてお申し込みください。

団体名(個人の方は記入不要)	
参加者名	
住所	
電話番号	
メールアドレス	

○参加申込先・お問い合わせ先

福井県総合政策部政策推進課

TEL 0776-20-0226

FAX 0776-20-0623

E-mail seisaku@pref.fukui.lg.jp